

歯科大学・歯学部の教育現場では、オンライン授業の体制の構築と共に臨床実習が必要なため、教職員と学生並びに患者も含めた感染対策が求められている。留学生を多く受け入れている神奈川歯科大学の「教育」「臨床」「研究」面での現状や、今後の展望などを櫻井孝学長に聞いた。

——新型コロナによる大学の授業体制への影響などを教えてください。
櫻井 本校は現在オンラインと面接のハイブリッド型の授業体制を取っています。3月30日に新年度の学生登校停止を決定しました。

4月15日からオンライン授業のガイダンスを始め、生徒の住環境などによっては、オンライン授業に対応できないケースもあるため、ガイダンス等を利用して通信環境を確実なものとし、オンライン授業を開始しました。

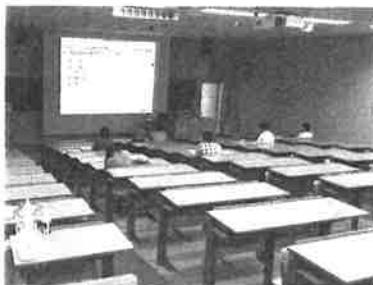
同月20日から全学年を対象にしたオンライン授業を正式に始め、環境の整っていない学生にも早急に対応できました。緊急

With コロナ

歯科大学編



櫻井 孝 氏 神奈川歯科大学 学長 ①



上げて、それをクラウド上で運用しています。オンライン授業で行った内容をオンラインで再視聴できるように専用の教材を作るなどして学生に提供しています。

開始当初はPCでのオンライン環境が整っていない家庭が多いが希望して受講しています。質問などあればチャットやメールを送って教師と質疑応答できるよう配慮しています。

——毎年留学生を140人は多くはオンラインで受講しているハイブリッド型の授業で、学生の多くはオンラインで受講している

事態宣言解除の5月11日をめどに通常の教育体制に戻す予定でしたが、感染拡大の影響も受け、6月7日まで登校停止を延長しました。6月8日からは希望する学生には登校させ、現在のハイブリッド体制となっていました。

櫻井 本校のオンライン授業では、パソニックと契約しており、独自のLMSを別に立ちます。

——オンライン授業の環境はどういう形で整備しましたか。

櫻井 20%ぐらいあつたのですが、スマートフォンやタブレットでも閲覧できるので、オンライン授業に踏み切りました。出席の確認は、学生のノートティキングを各担任がチェックすることで行っています。しかし、教職員の負担

ありました。

櫻井 先の状況が見えていた

ので、入国制限が掛けられる前

に学生には早めに入国していました。新入生6人と2年生1人が入国していなかったので、ビザが下りず入国できない状態になりました。日本に入国できない学生にはオンライン授業で受講してもらう形を取りました。

講義は「ハイブリッド型」

が大きくなるので、今は、授業ごとに生徒のオンラインのログイン・アウトで確認しています。

10月時点でオンライン授業は、学生の全体で60%割合になりました。その留学生が10月21日によくやく入国できました

通りました。その留学生が10月21日によくやく入国できました

が隔離期間があるので2週間は登校できない状態でした。半年ほど入国時間が遅れる形になりました。

諸事情で学修が遅れた学生たちに対しては、今後確認評価の試験を行うなど、特別な対応策を設けていく予定です。